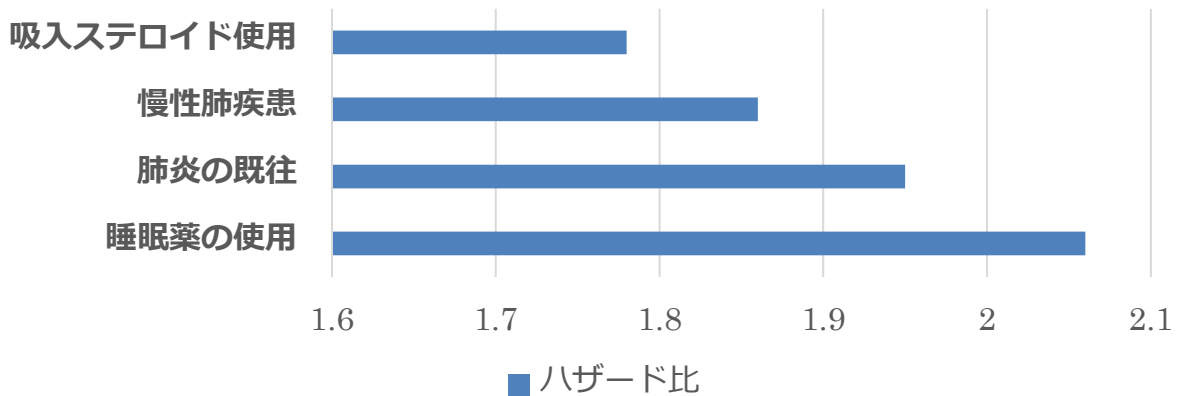




Vol.8 肺炎にならないための処方箋 その2

睡眠薬が肺炎の最大のリスク因子

841 人の本邦の成人を対象にした最近の研究では、繰り返す肺炎のリスク因子として睡眠薬の使用・慢性肺疾患・吸入ステロイドの使用・肺炎の既往などが挙げられており、この中で睡眠薬の服用が最大のリスク因子であることが判明しました。



(ハザード比とは、ある瞬間における発生率の比のことを言います。上記の睡眠薬の使用のハザード比が 2.0 を超えているということは、睡眠薬を使用しない人と比べ肺炎の発生が 2 倍高いという意味になります)

喘息の方は治療の基本薬として吸入ステロイドは必須ですから、この結果をあまり心配する必要はありません。しかし、これらのリスクが組み合わさると肺炎になりやすいので喘息の方は睡眠薬の使用はできるだけ避けた方がよいでしょう。

高齢者にとってそもそも睡眠薬は安全な薬ではない！

高齢者の安全な薬物療法ガイドライン 2015 によれば、①トリアゾラム（ハルシオン）は健忘のリスクがあり使用するべきではない、②ほかのベンゾジアゼピン系も可能な限り使用を控える、③使用する場合、必要最低量をできるだけ短期間使用に限る、④非ベンゾジアゼピン系睡眠薬も漫然と長期投与せず、減量、中止を検討する。としています。主な副作用は、過鎮静、認知機能低下、せん妄、転倒・骨折などです。

ベンゾジアゼピン系睡眠薬	非ベンゾジアゼピン系睡眠薬
ハルシオン	マイスリー
レンドルミン	アモバン
エバミール	ルネスタ
ベンザリン	
ユーロジン	

誤嚥性肺炎を薬で予防する

誤嚥性肺炎の予防効果が認められている薬として、**ACE 阻害剤**・アマンタジン・プレタール・半夏厚朴湯などがあります。**ACE 阻害剤**は降圧剤のひとつで非常に多く処方されています。(ACE 阻害剤：コバシル、レニベース、ゼストリル、セタプリルなど)

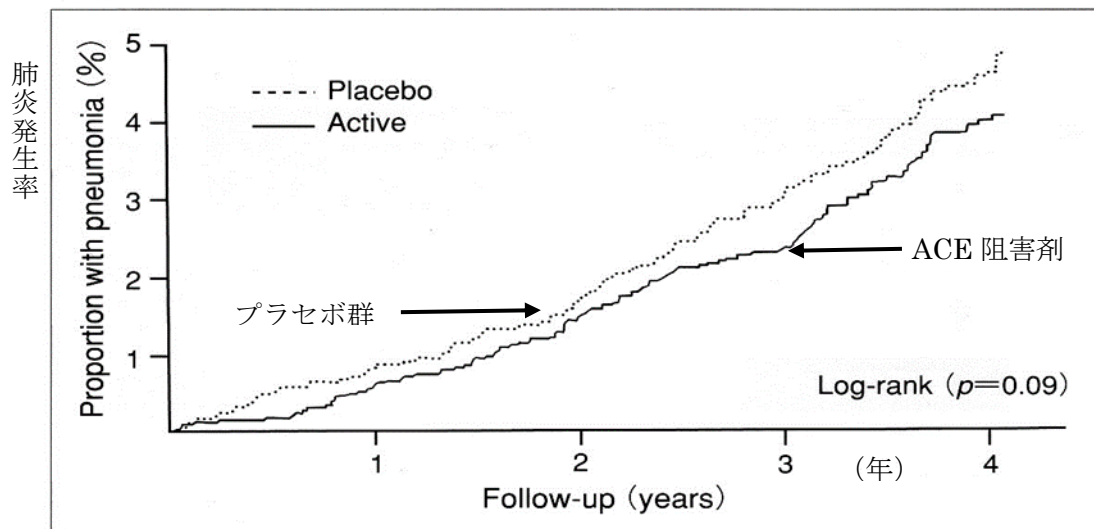


図2 Angiotensin-converting enzyme inhibitor (ACE-I) 薬などが肺炎発症を抑制する

Perindopril Protection Against Recurrent Stroke Study Collaborative Group (PROGRESS) を肺炎について再解析したところ、ACE-I 実薬群では肺炎発症が抑えられていた。 (文献¹⁰より引用改変)

プレタールは抗血小板剤の一つで脳梗塞の再発予防として処方されますが、肺炎の予防効果が認められていて脳卒中治療ガイドライン 2015 でも“嚥下障害による誤嚥性肺炎の予防に投与を考慮しても良い”と記載されています。

半夏厚朴湯は、のどのイガイガ感などの咽喉頭異常感症などに著効する漢方ですがこれも予防効果が認められています。

過去に肺炎を起こしたことがある高齢者や、肺炎を起こすリスクのある方は、肺炎のリスクの高い睡眠薬の内服は避け、予防効果のある薬の内服を検討するのがよいでしょう。



もとき内科クリニック

住所：藤沢市辻堂神台 1-3-39 杉がビル 4F

TEL:0466-47-8216

文：院長 大江 元樹